

SHIRASEとは

「しらせ」は日本で三代目の南極観測船（自衛隊区分では砕氷艦）です。退役後はスクラップになることが決まっていたましたが、現在はSHIRASEという名称に変更、船橋港に係留し、元自衛官によるガイドツアーや体験型のイベントなどを行っています。

SHIRASEの取り組み

SHIRASEの存在を皆様にも知ってもらうために次の事業を行っています。

①船内見学

SHIRASEでは毎週木～日曜日にかけて船内を見学できるようにしています。見学コースや申し込み方法などの詳細は裏面をご覧ください。

②体験型イベントの開催

SHIRASEの船名は日本で初めて南極へ出かけた冒険家白瀬瀧（のぶ）と間接的につながっています。彼のチャレンジ精神にちなみ、体験型イベント「チャレンジングSHIRASE」を年数回開催しています。

③ヴァーチャルツアー

SHIRASEに乗船できない方にも船内の様子を体験してもらえよう「ヴァーチャルツアー」特設サイトを用意しています。

④その他の取り組み

船内見学やイベント以外にも下記のことを実施しています。

- 会議、研修会場としての利用
- 映画・ドラマの撮影協力
- 大規模災害時におけるコンビナート職員の一時避難場所としての活用
- 塗装大会の実施



南極昭和基地に接岸したしらせの様子



南極海航行中の横揺れ傾斜角度は最大で左に53度まで達することもあった



元自衛官によるガイドツアー（プレミアムコース）の様子



塗装大会の様子

お問い合わせ
SHIRASE 5002 一般財団法人 WNI 気象文化創造センター SHIRASE 事務局
☎ 043-274-3191 (平日9:00～17:00) ✉ shirase-goiken@shirase.info

SHIRASEの見学方法

■オンラインで申し込む

見学はオンラインで申し込みます。下記のQRコードからアクセス下さい。
(「乗船の注意」を一読の上、「見学の事前申し込みはこちら」へ)

- ベーシックコース(ガイドなし)
 - ・開催日：毎週土・日曜日 [①10:30-12:00 ②13:30-15:00]
 - ・大人(中学生以上)500円 小学生200円 未就学児無料
 - ※土曜日のみ「SHIRASE文庫閲覧つき」もあります。
- プレミアムコース(ガイドつき)
 - ・開催日：毎週木・金曜日 [①10:30-12:00 ②13:30-15:00]
 - ・大人(中学生以上)1,300円 小学生600円 未就学児無料
- 団体コース(ガイドつき)
 - 11名以上の団体は、3ヶ月前～1ヶ月前に優先的な申し込みが可能です。

■イベント「チャレンジングSHIRASE」に参加する

SHIRASEを舞台に地域の皆様と共に体験型のイベントを年に数回開催しています。開催日や料金などの詳細は、SHIRASEホームページ<http://shirase.info>またはSNSを参照下さい。

【交通アクセス】

電車の場合

- ・JR総武本線/京成本線「津田沼駅」タクシー約20分
- ・JR京葉線「新習志野駅」タクシー約10分

※千葉ビール園行きのシャトルバスをご利用いただけます。
本数が限られてますので必ず時刻表を確認下さい。



お車の場合

- 東関東自動車道 湾岸千葉IC(上り)から約10分 谷津船橋IC(下り)から約5分
- 京葉道路 花輪ICから約10分

※船内は急な階段や狭い通路が有るため、飲酒をされている方はお断りします。
また、幼児は必ず手を引き、高齢な方は状況により付き添いをお願いします。

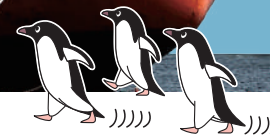
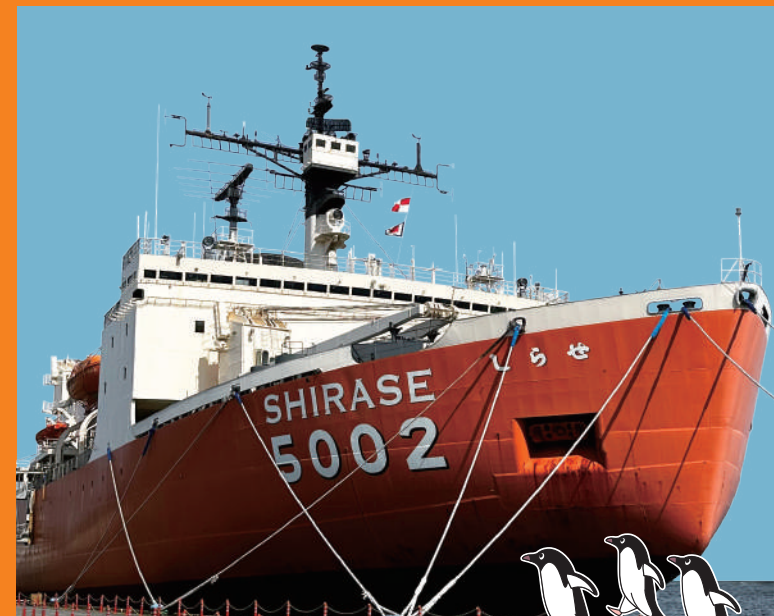


■SHIRASEの見学はこちらにアクセス! <https://shirase.info/>



SHIRASE 5002 三代目の 南極観測船

CHIBA, Funabashi



■SHIRASEの今はこちらから発信中!



SHIRASEのお知らせ



@icebreakershirage5002



@shirase5002

船内を見てみよう!

SHIRASEは230名の乗員や観測隊員、1000トンにも及ぶ物資、3機のヘリコプターを載せて日本と南極昭和基地との間を25往復した船です。当時の乗員や観測隊員になった気分で見学してみよう!

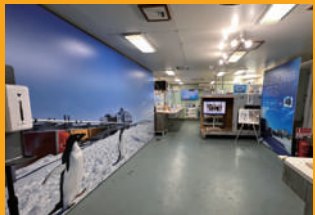
※「ベーシックコース(ガイドなし)」ではこちらの一部をご覧頂けます。
 ※SHIRASE文庫は「SHIRASE文庫閲覧つき」コースのみご入場頂けます。



ヘリ格納庫
 2機のS-61A型ヘリコプターと1機のOH-6型ヘリコプターが搭載され、整備が行われていた場所です。



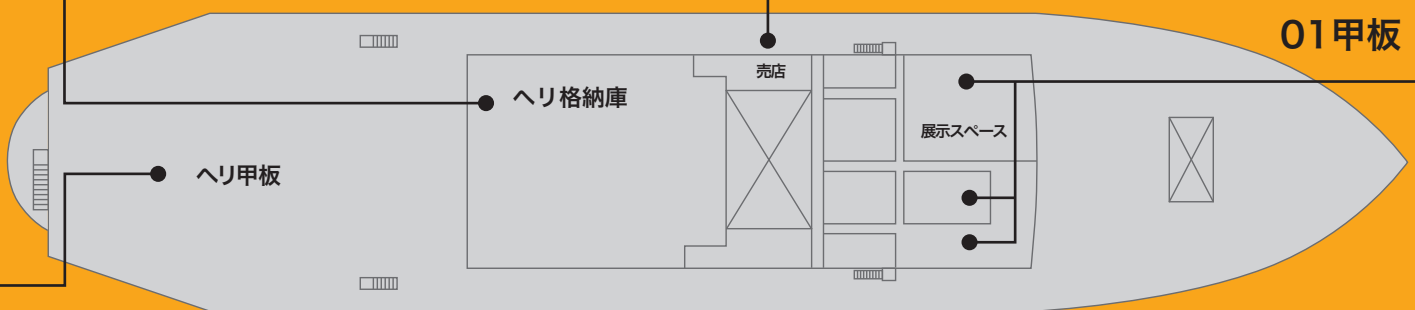
ヘリ甲板
 大型ヘリコプターのS-61A型が離発着可能な甲板です。南極ではヘリコプターが隊員や物資の輸送に欠かせない存在です。イベント開催時には出店やバンド演奏などが行われています。



昭和基地の建物を支える
 昭和基地の建設に関わっている住家メーカーさんの取り組みを知ることができます。

SHIRASE概要

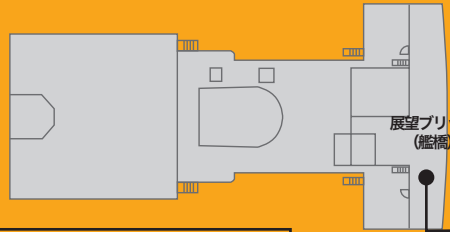
- 大きさ: 長さ 134.0m / 幅 28.0m
- 排水量: 11,600t
- 乗員: 180名
- 観測隊員: 50名
- 所管: 海上自衛隊
- 就役: 1982年(建造: 日本鋼管鶴見造船所)
- 退役: 2008年7月
- 南極観測行動: 1983~2008年(第25次~第49次)
- 南極渡航回数: 25回
- 昭和基地接岸回数: 24回(歴代南極観測船で最多)



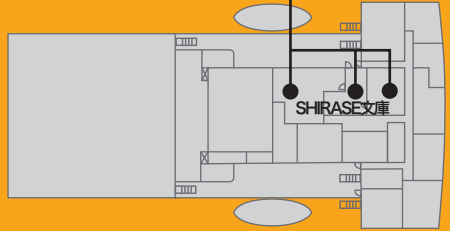
SHIRASE文庫
 長い間南極昭和基地に置かれていた本を引き取り閲覧できるようにしています。



売店
 オリジナルグッズを販売しています。



04甲板



03甲板



展望ブリッジ(艦橋)
 ブリッジは寒い海域を航行することを考慮して室内構造になっているのが特徴です。



展示スペース
 南極観測の歴史や自然環境、南極観測船等に関わる様々な資料の展示を行っています。



科員食堂
 一般の乗員(科員)が食事や休憩する場所です。金曜日の昼食は定番のしらせカレーでした。



観測隊公室
 観測隊員が食事をしたり会議をしたりする場所です。航行中は南極大学(南極観測の講義)が開校していました。



科員寝室
 乗員が居住していた部屋です。6・8・10人部屋です。彼らの1回の任期は2年です。



観測隊員が語る初期の南極観測
 南極観測で用いてきた機材やサンプル、記念品などを見ることができます。



観測隊寝室
 50名の観測隊員が1~4人部屋に居住していました。研究者や医師、コック、エンジニアなど多彩な顔ぶれです。



理髪室
 理容師さんは乗船していません。ここで隊員同士が髪を切ります。



医務室
 手術ができる医療設備があります。3~4人の医師が乗船していました。